

潤いの森8月

シンジュサン

シンジュサンは、日本に生息するガの中でも最大級の仲間で、羽を広げると手のひらほどの大きさになります。その迫力ある姿から驚かれることもあります。人を刺したり噛んだりすることはなく、毒も持たないおとなしい昆虫です。

また、成虫になると口が退化して食べ物をとることができず、幼虫の時に蓄えた栄養だけで生きています。

さらに、シンジュサンはカイコと同じく絹をつくる蚕の仲間で、人々の暮らしや織物文化とも深い関わりを持っています。

大きく美しい姿だけでなく、人との意外なつながりを持つ魅力的なガなのです。

学名：Samia cynthia pryeri
分類：チョウ目ヤママユガ科
体長：開張11～16cm
分布：北海道から沖縄まで広く分布
出現時期：5～9月頃



引用写真：
「iroai.jp」



なぜ「シンジュサン」?

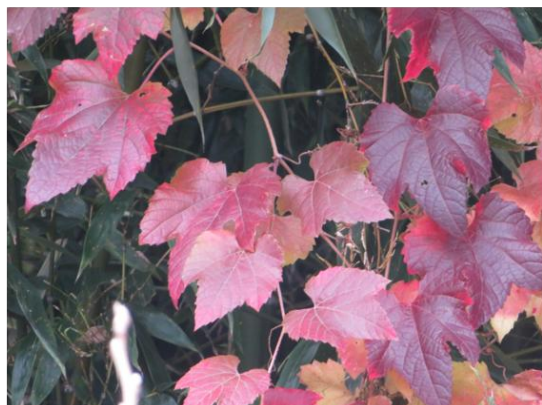
「シンジュ」とは「神樹」と書き、幼虫がよく食べる木「ニワウルシ」の別名です。「神樹を食べる蚕」という意味からシンジュサンと呼ばれています。ただし、ニワウルシは明治時代に日本に入ってきたとしており、古くはミツキムシ（三月虫・三日月虫）と呼ばれており、これは翅にある特徴的な三日月模様由来だとされています。



エビヅル

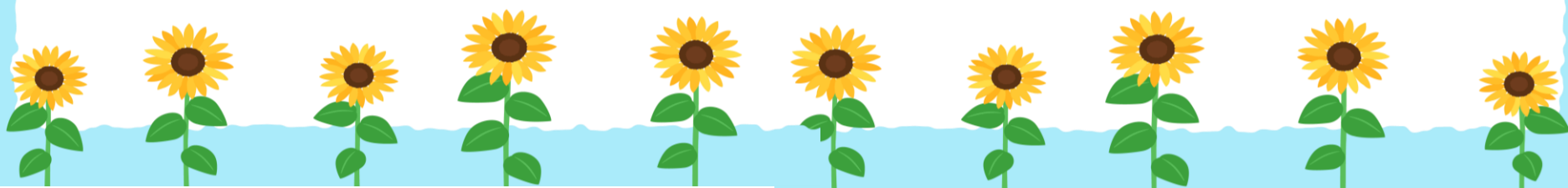
エビヅルは、日本の山野や林の縁に自生する野生のブドウの仲間です。巻きひげを伸ばして木々に絡まりながら成長し、秋になると黒紫色の小さな実をたくさんつけます。実は酸味が強いものの食べることができ、ジュースや果実酒として利用されることもあります。私たちが普段食べるブドウの多くは海外を原産とする栽培種ですが、エビヅルは古くから日本に自生してきた野生のブドウです。身近な里山に見られる植物でありながら、日本の自然や食文化の歴史を今に伝える存在でもあります。

学名：Vitis ficifolia
分類：ブドウ科ブドウ属
分布：日本



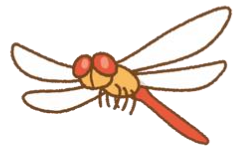
「エビ」は海老ではない!?

エビヅルの「エビ」は海老ではなく、昔の日本語で「ブドウ」を意味する言葉です。そのため、エビヅルは「ブドウのつる」という意味になります。また、ブドウの果実のような赤紫色を表す「葡萄色（えびいろ）」という色名にも、その名残が残っています。



ナツアカネとアキアカネ

分類：トンボ目 トンボ科
 大きさ：体長3.5～4cmほど
 分布：北海道から九州まで
 日本全国に分布



秋の田んぼで見かける「赤とんぼ」の代表がアキアカネとナツアカネです。実は見た目がよく似ていますが、暮らし方には大きな違いがあります。アキアカネは羽化した後、暑い夏を避けて山地や高原へ移動し、秋になると平地へ戻ってきます。一方、ナツアカネは夏でも平地で過ごすことが多く、その名のとおり夏にも見ることができます。



アキアカネとナツアカネの見分け方



とがっている

平ら



アキアカネ

ナツアカネ



ツルボ

ツルボはキジカクシ科の多年草で、北海道から沖縄まで日本各地に分布しています。日当たりのよい草地や土手、林の縁などに生え、夏の終わりから秋にかけて淡いピンク色から紫色の小さな花を穂状にたくさん咲かせます。花は下から順番に咲き上がるため、長い期間その美しい姿を楽しむことができます。

地下には球根があり、暑さや寒さに強く、毎年花を咲かせます。身近な場所に生える植物ですが、よく見ると繊細で美しい花をつけることから、秋の野草として親しまれています。

学名：Barnardia japonica
 分類：キジカクシ科 ツルボ属
 花期：8～9月
 分布：北海道～沖縄、日本各地
 生育環境：草地、土手、林縁、道ばたなどの日当たりのよい場所



毒があるのに

昔は非常食だった!?



ツルボの球根にはデンプンが多く含まれていますが、有毒成分も含まれています。かつては食料が不足した時代に十分なアク抜きをして食べられていましたが、安易に食べるのは危険です。古くから人々の暮らしに利用されてきた身近な植物です。

